寺社・古墳の名所そろう

玉村地区

❶ 玉村八幡宮 国重 町重 国登録有形文化財 下新田1

玉村八幡宮の敷地は中世の屋敷跡を利用したもの。

見ごたえがある社殿。

随神門●慶応元年(1865)建立。江戸時代は仁王門とよばれていた。

鎮守の森に囲まれた玉村八幡宮。源頼朝が鶴岡八幡宮を勧請して角渕に創設したのが始まりで、江戸初期に代官伊奈備前守忠次によって今の地に遷座したと伝えられる。本殿は三間社流造で室町後期の建築様式を残す国指定重要文化財。幣殿・拝殿、神楽殿、随神門は町重要文化財。末社国魂神社はもとは玉村小の奉安殿で国登録有形文化財。

❷ 木島本陣跡歌碑 町史 下新田484-1

通例、日光例幣使の帰路は東海道を通るが、帰路も日光例幣使道を利用した例幣使。帰路の無事を祈っている。

天保一四年(一八四三)に日光例幣使を務めた綾小路有長が書き残した和歌の石碑。元治元年(一八六四)建立。

❸ 称念寺 家鴨塚 下新田1016-1

境内にある家鴨の供養塚。嘉永三年(一八五〇)、国定忠治の江戸送りの際、道案内角万佐十郎が忠治の持病(中風)の治療に家鴨の血を飲ませたと伝えられる。

❹ 満福寺 福島1251

玉村の地名伝説が残る寺で、山号は玉龍山。「龍の玉」が納めてある黒塗りの二重の箱が伝わっている。

❺ 阿弥陀三尊板碑(観照寺) 町重 上之手1282

写真向かって右より弘安7年(1284)・弘長2年(1262)・文和2年(1353)。死者の供養や自らの死後の冥福を願って造られた供養塔。

❻ 文安銘五輪塔 町重 南玉783(個人墓地)

原家の墓碑群のなかに、二つの墓が寄り添うように立っている。室町時代の夫婦の墓で、夫が文安五年(一四四八)、妻が翌六年と、建立時期がわかる貴重な五輪塔。

❼ 斎藤宜義の墓(宝蔵寺) 県史 板井1065

宜義は文化13年(1816)板井に生まれた。父宜長と共に群馬県内における関流和算の大家で、円理と呼ばれる現在の微積分の研究にすぐれた業績を残した。

❽ 軍配山古墳 町史 角渕4755-1・-2

4世紀に造られた円墳。内行花文鏡・勾玉などが出土している。軍配山の名は、天正10年(1582)の神流川合戦で、織田信長家臣滝川一益がここで軍配を振るったという伝承からつけられたといわれている。

❾ 角渕八幡宮 角渕2075-1

建久4年(1193)、源頼朝が那須野(栃木県北部)での狩の帰路、休憩した烏川の風景が鎌倉の由比ヶ浜に似ていると、同6年に鶴岡八幡宮より分祀し、建立させたと伝わる。現在の本殿は江戸後期のもの。

❿ 五丁目旧屋台・六丁目旧屋台 町重

五丁目は玉村八幡宮、六丁目は下新田公園に屋台蔵あり。

玉村八幡宮大祭用の屋台。五丁目旧屋台は、安政5年(1858)、越後の大工と吹上(埼玉県鴻巣市北西部)の彫物師による作といわれている。六丁目旧屋台は、その1年後につくられ、大工・彫物師も五丁目と同一と推定されている。

のどかな景色に歴史が息づく

上陽地区

⓫ 神明宮 樋越412-4

境内に咲く梅は見事。春鍬祭の祭場。

いにしえに伊勢太神宮を勧請し、のち安元元年(一一七五)、藤原秀郷の末裔、足利又太郎忠綱が再興して、樋越村字神人村八王塚(現神明)に鎮座したと伝えられる古社。本殿は一間社流造、境内には二八の末社である石殿が建ち並んでいる。

⓬ 花台寺 五仏 樋越207-4

中世に阿佐美氏の屋敷があった所。

境内には元禄二年(一六八九)建立の五智如来石仏がある。中央の大日如来が胎蔵界の仏で他の四仏は金剛界という不思議な組み合わせで、五仏揃った貴重なもの。

⓭ 嚮義堂 町重 樋越486-1

「嚮義堂記」　「學」

伊勢崎藩時代の郷学(庶民の学校)で、文化5年(1808)に設立。現在ある建物は明治時代の建築と伝えられる。鬼瓦に「學」の文字が刻まれ、庭内には嚮義堂の石碑「嚮義堂記」が残る。

⓮ 浦野神村の墓 樋越312-2

嚮義堂の先生。

江戸後期に、伊勢崎藩の子弟を教育し、すぐれた行政史としても活躍した。本名は仁左衛門、隠居後の雅号が神村。

⓯ 光琳寺 飯塚174

上野寛永寺の天海の弟子尊忠により寛永一七年(一六四〇)に創建された天台宗の寺。現在の本堂は延享元年(一七四四)に建てられ、虹梁・鴨居に彫刻がなく質素な意匠で幕末の物とは一線を画している。また、同時代に建てられたと思われる山門が、薬医門の形式をとるのも貴重。

昔話 その昔、光琳寺の近くに塚があった。源頼朝がこの地を通ったとき、この塚で昼食をとり、家来が食い散らかした残飯を集め供養したため、この塚を飯塚とよぶようになった。そのとき頼朝が使っていた箸を逆さに挿したのが根付いたため「逆さ柳」といわれる柳があったが、今は枯れて現存しない。

⓰ 砂町遺跡案内板(北部公園築山) 上福島311-1

北部公園の整備に伴う発掘調査で発見された「砂町遺跡」。平成一〇年度から一一年度までの調査で、古墳時代前期の灌漑用水跡や奈良時代の道路跡(推定「東山道」)、平安時代の水田が発見され、県内外から注目を集めた。

⓱ 稲荷神社(藤川) 藤川55-1

7月24日にそれぞれの神社で悪魔祓い(悪魔払い)というお祭りが子どもたちによって行われる。

応仁2年(1468)、雨天続きで百姓が困窮していたところ、領主那波氏が山城国(京都府)伏見稲荷を勧請し、天災即滅の祈願をしたのを起源と伝えている。

⓲ 飯玉神社(飯塚) 飯塚295

稲荷神社と同じく、応仁二年(一四六八)、百姓困窮を憂えた領主那波氏が、那波郡堀口村(伊勢崎市)の飯玉大明神の分霊を祀って、天災即滅を祈ったのを起源と伝えている。